

## 研究課題名

血液透析患者における細胞外液量/総体液量比 (ECW/TBW 比)、protein-energy wasting (PEW)と生命予後との関連について

## 研究グループ

研究責任者：矢島 隆宏 (松波総合病院 腎臓内科)

共同研究者：荒尾 舞子

## 研究の目的および概要

血液透析患者さんにおいては、体液貯留と栄養障害(protein-energy wasting: PEW)が生命予後に悪影響を及ぼすことが知られています。生体インピーダンス法による体組成の評価が、体液貯留と栄養障害を同時に評価することが可能であることが示唆されています。数ある指標の中で、生体インピーダンス法により得られる細胞外液量/総体液量比 (ECW/TBW 比)は、体液量の指標であり、ドライウエイトを設定するときの一つの指標として知られています。しかしながら、今のところ ECW/TBW 比と栄養障害との関連は明らかになっていません。そこで、ECW/TBW 比と栄養障害の指標である簡易 PEW スコア(Alb, BMI, Cre, nPCR[蛋白摂取量の指標]からなる簡易指標)との関連を明らかにするとともに、ECW/TBW 比が生命予後の予測に有用か否か検討します。

この研究では、2008年から2016年に当院にて外来維持透析中で、生体インピーダンス法にて体組成の測定がされた患者さんを対象とします。生体インピーダンス法が施行されたのと同月の定期検査の血液検査データを参照します。対象者の方々の診療記録と検査データ(血液、生体インピーダンス法により得られた ECW/TBW 比)を用い、生命予後との関連について後ろ向きに分析を行います。2020年末までの生命予後を評価します。

検査データやカルテに含まれる情報をこの研究に使用する際には、個人の氏名の代わりに研究用の番号をつけて取り扱います。また、カルテを閲覧する研究者は最小限とします。研究用の番号がどなたのものであるかを示す対応表のファイルは、パスワードをつけて院内のインターネットに接続できないコンピュータに保管し、研究終了後5年間保存後廃棄します。研究成果の発表に際し、個人が特定できるような情報が公開されることはありません。

## 利用する情報の項目

カルテ情報：診療記録と検査データ(血液、生体インピーダンス法により得られた細胞内液量、細胞外液量、総体液量のデータ)

## 利用するものの範囲

矢島 隆宏

連絡先

松波総合病院

腎臓内科

矢島隆宏

TEL: 058 388 0111 代

FAX: 058 388 4711